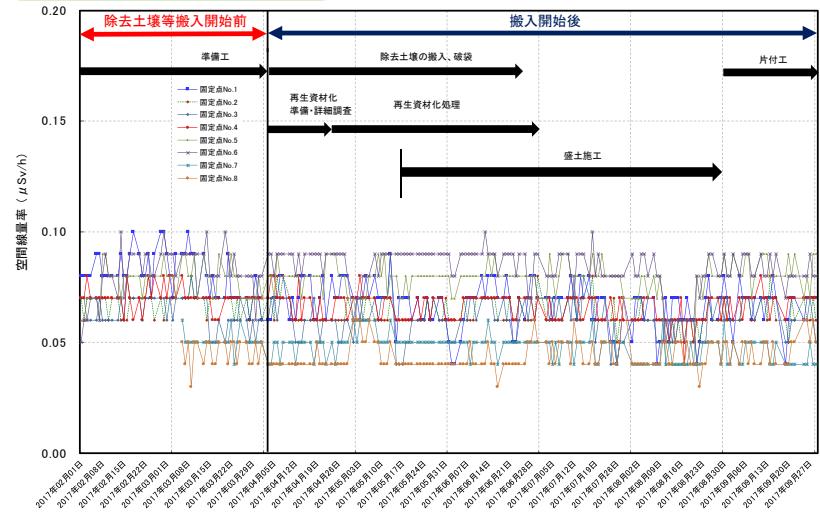


■周辺環境モニタリング

試験盛土完成後も、引き続き実証事業実施場所において、敷地境界の空間線量率や大気中放射能濃度、排水の放射能濃度等を継続的に計測し、モニタリングを実施していきます。

空間線量率



空間線量率は、除去土壌搬入開始前と搬入後において、**0.03 μSv/h ~ 0.1 μSv/h**程度の範囲内にあり大きく変動していません。

大気中放射能濃度

除去土壌	Cs134濃度 + Cs-137 濃度 (Bq/cm ³)
搬入開始前 (平成29年4月以前)	1.70 × 10 ⁻¹¹ ~ 4.14 × 10 ⁻¹⁰
搬入後 (平成29年5月~9月)	3.56 × 10 ⁻¹¹ ~ 5.57 × 10 ⁻¹⁰

大気中放射能濃度は、除去土壌搬入開始前と搬入後において、**10⁻¹¹~10⁻¹⁰Bq/cm³**程度であり大きく変動していませんが、仮に除去土壌搬入開始前の最小濃度と搬入後の最大濃度の差を再生資材からの影響とした場合、**作業員等の内部被ばく線量は0.001~0.01 μSv/年**程度となり、除去土壌の安全な利用に係る基本的考え方^{*}で示した**施工時の作業員等の年間追加被ばく線量1mSv**と比較しても十分低い結果となっています。
^{*}再生資材化した除去土壌の安全な利用に係る基本的考え方について H28.6 環境省

排水の放射能濃度等

項目	放射基準値	測定値 (平成29年4月 ~ 9月)
放射能濃度	Cs134 60Bq/L以下 Cs134 90Bq/L以下	不検出 (検出下限値 4.48Bq/L~8.47Bq/L)
水素イオン濃度 (pH)	5.8~8.6	7.17 ~ 8.56
浮遊物重量	50mg/L以下	0.0 ~ 17.9

排水の放射能濃度は、除去土壌搬入開始後また盛土完成後も、**全て不検出 (検出下限値未滿)**です。

浸透水の放射能濃度

浸透水 (盛土底部の集水層に溜まった水) の放射能濃度は、浸透水を採取した平成29年5月から9月まで、**全て不検出 (検出下限値未滿)**です。

有識者からの主なご意見

平成29年10月11日に開催された減容再生利用技術開発戦略検討会の有識者の委員から、「**本実証試験の結果から、再生資材は材料として十分利用可能。また、浸透水中の放射能濃度が検出下限値未滿を今後も保持するかは重要なデータになることから引き続きモニタリングを継続すること**」とのご意見がありました。

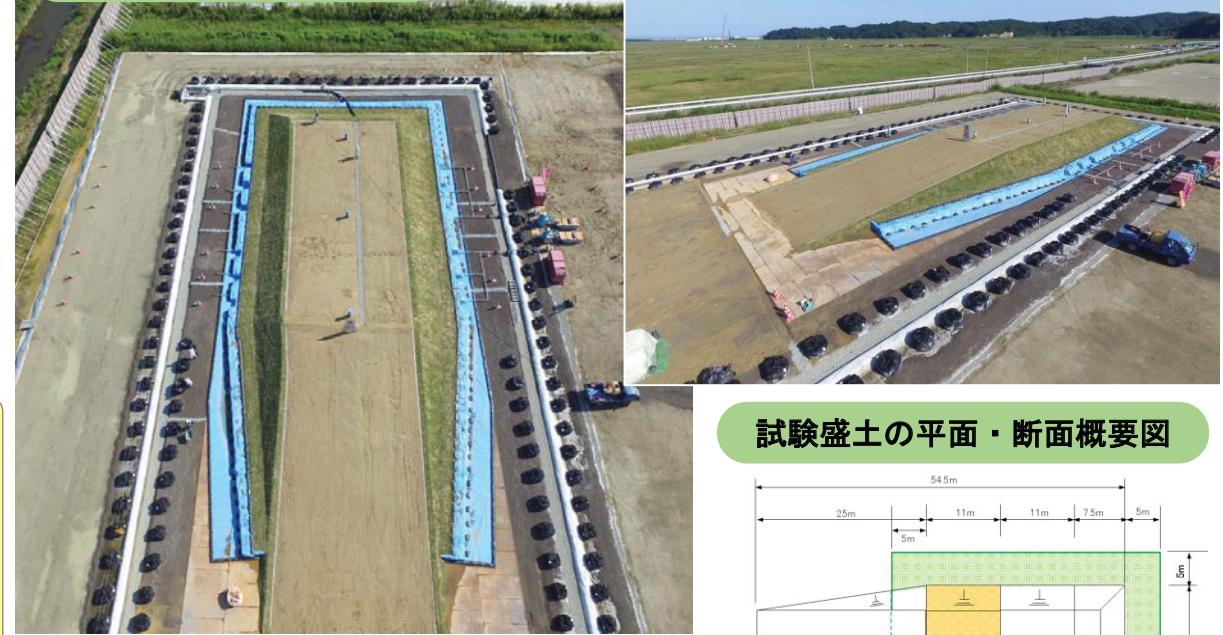
■連絡窓口

- 発注者 環境省 東北地方環境事務所 福島地方環境事務所 福島市栄町11-25 AXCビル 4階 調査設計課 / 電話 024-563-1293
- 事業者 除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合 【現地事務所】 南相馬市小高区耳谷字南谷地 (東部仮置場内) 電話 070-2432-4031 【東京事務所】 港区虎ノ門1-1-18 / 電話: 03-6550-9001

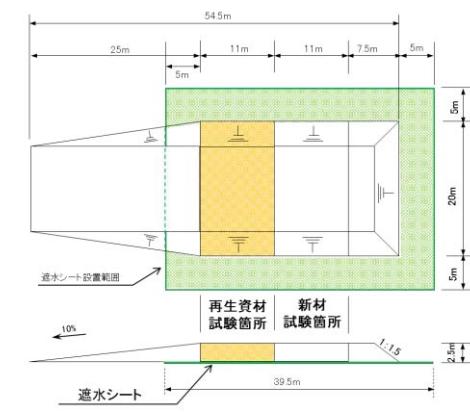
■事業の実施状況

再生資材を使用した試験盛土が完成しました。各層を30cmごとに敷きならし、締固めを行った5層分の再生資材を、厚さ50cmの新材 (購入土) により覆土しました。また、法面には芝を張り、風雨による侵食を防止しています。試験の結果から、再生資材は新材 (購入土) と同等に盛土材料として良好な施工性を有することが確認されました。

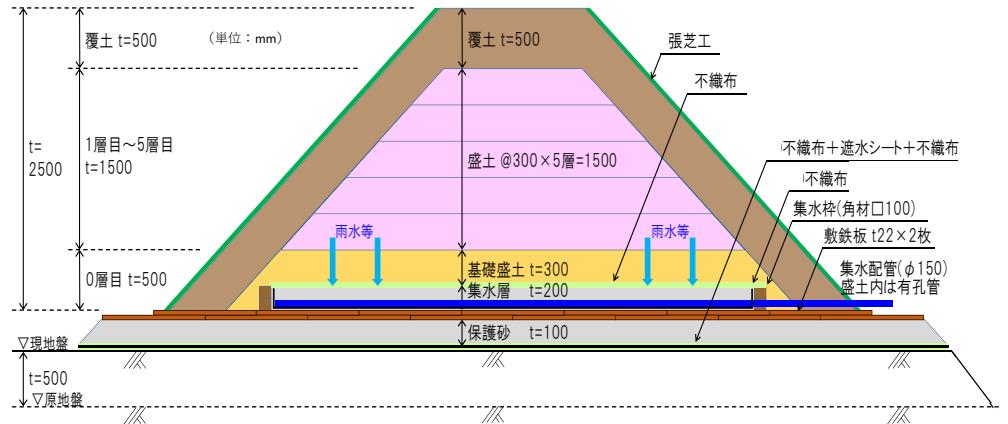
完成の試験盛土のようす



試験盛土の平面・断面概要図



試験盛土の断面イメージ図



■今後の予定

今後も、盛土周辺の空間線量率、盛土からの排水の放射能濃度、盛土の健全性等のモニタリングを引き続き実施し、安全管理に努めて参ります。